

[ホーム](#) > [市民レポーター](#) > **第1回「トムソーヤの川下り」**

第1回「トムソーヤの川下り」

6月20日に環境フェスティバルの屋外イベントの一つとして、落合川「いこいの水辺」中心に行われました。
 主催は「トムソーヤの川下り実行委員会」で、東久留米総合高校生徒のボランティアの協力もあり実現したもので、予定の60組を超えるチビッコ組が参加、梅雨期の一日歓声と笑顔が川辺に満ちあふれました。当日の様子を報告します。



使用するボート(?)はジェット機
 のトイング(けん引)車の車輪で
 す。これを竹の棒で操縦しながら約
 250メートルの川を下るのですが、
 1チームは小学生以下2名で、道中
 保護者の方が見守ります。



東久留米総合高校のボランティア
 36名の協力なしではできないイベ
 ントです。



というもこの巨大で重いボートの
 移動には特に彼らの力が必要なの
 です。
 ゴール後にスタート地点まで運びもど
 さねばなりません。



アイデアです。文字通り「エコ」ライフ
 ジャケットです。そのほか運営方法を
 含め随所に考え抜かれた工夫が見ら
 れました。



スタート直前風景です。選手も関
 係者も緊張のときです、何しろ初めて
 のイベントです。



ゼッケン1番が出発しました。



スタート地点の毘沙門橋下はかな
 りの急流ですが、なんとかクリアしたよ
 うです。



操縦はむしろ流れが遅くなると難し
 いようです。思わず立ち上がったの奮
 闘です。



先のチームが見え出すとなんとかス
 ピードを上げようと、二人とも立ち上
 がってしまいました。



普段からきっと仲良しなんでしょう。
 余裕も感じられます。操縦は、1本
 の棒でのほうが確かのように見えま
 した。



このようにいったん整列してからスタ
 ート地点に向かいます。このころは高
 校生も慣れてきています。



このあたりからはゴールが見え出しま
 すので、焦りの気持が出てきます。



ゴール直前のユツリした流れです、
 このチームは全くのマイペースのよう
 です。



2時過ぎにすべてのチームが無事
 「川下り」を終えました。
 ボランティアの皆様ご苦労さまでし
 た！時々生徒から、「とても楽しいボ
 ランティア」と満足そうなコメントがあ
 りました。また主催者のAさんに、「僕ら
 にもやらせてほしい！」と談判していま
 したが、「今度は高校生大会をする
 ぞ」に納得の笑顔でした。

清らかな水が町の中心部を流れる
 東久留米ならではの素晴らしいイベ
 ントでした。このような企画ができるのは
 「清流」を守る地域の団体の地道な
 活動があることを忘れてはなりません。
 東久留米の誇りとなる行事に育って
 くれることを期待します。

市民記者-球歩